

H・ケルブレ著永岑監訳

『ヨーロッパ社会史—1945年から現在まで』（日本経済評論社、2010）

第8章 移民

戦後の時期

強制移住・・・難民

ドイツ戦時経済・・・700万～800万人の強制労働者
戦争終結により、その母国への帰還。

何百万もの捕虜、強制収容所の生き残りの囚人、被追放民、疎開者、
爆撃から逃げた人々の帰還
捕虜になっていたドイツ人…500万人

労働移民・・・戦後の時期の普通の労働移民

1950年フランスに約180万人、ベルギーでも40万人

繁栄したアメリカへの移民

逃亡移民・・・ナチス、戦争犯罪人、マフィアのような戦争成金、その他の独裁国
家支持者で罪に問われた人々の密かな逃亡。

1950年代と60年代のブーム

ドイツ人の故郷被追放民、1千数百万人・・・ブームの中で、ドイツ社会に統合

労働移民・・・周辺部から工業化したブームのヨーロッパ中心部へ

1950～70年に外国人就業者数は、3倍ほどに。

統計参照。

移民の期限と社会構造

50年代と60年代・・・ヨーロッパ内部の周辺から中心へ。

フランス・・・1968年の外国人の3分の2は、ヨーロッパ諸国人（スペイン、
イタリア、ポルトガル、ベルギー、そしてポーランドから）

ドイツ・・・外国人労働者のなかではヨーロッパ出身が多かった。5分の4
はヨーロッパ出身、とくにイタリア、ユーゴスラヴィア、ギリシャ、
スペインから。トルコ出身は、移民の6分の1。

70年代に至るまで、不熟練化教育水準の低い者の比率が高かった。

移民は主に男性。若く、家族を伴わず。子供の教育問題などは発生せず。

受入国で限られた期間だけ働き、その後は母国（周辺国）へ帰還
企業の安い集合宿泊所に住む。

70年代と80年代・・・移民のなかで「徹底的な変化」

73年のオイルショック・・・不景気・・・労働移民のストップ・募集停止。

しかし、外国人住民は増加・・・家族呼び寄せ、家族生活。

1970年から90年の間に西ヨーロッパの外国人総数は、

約1100万人から1600万人に。

増加が特に多かったのは、ドイツ連邦共和国、オランダ、オーストリア。

少なかったのは、イギリス、スイス、スウェーデン。

外国人総数を上昇させたのは、「今やとりわけ家族」。

・・・外国人の生活様式の変化。地元住民への同化。

彼らからも、福祉国家の給付要求。

移民の労働の特定経済分野の偏りも減少

・・・3K労働への偏りからたいていの産業部門・サービス部門へ。

小売商人、旅行代理店経営者、手工業修理業者など外国人小市民階級の形成。

さらに、企業家、医者、技師、小説家なども。

移民の性格の変化・・・不熟練・・・2, 3年で取り換え可能。

しかし、熟練と高度資格の職業では、短期取り換えは不可能。

出身地の変化・・・「新しい移民の出身地が決定的に変わった」

ヨーロッパ周辺部（スペイン、ポルトガル、ギリシャ、ユーゴスラヴィア、アイルランド）から、地中海の東部と南部のイスラム教地域に、部分的には、いくつかのヨーロッパ諸国のかつての植民地に。

要因・・・アフリカと近東の人口圧力の増大、アフリカとヨーロッパ間の経済格差の増大、輸送、とりわけ空輸の低廉化、増える残虐な独裁国家・ジェノサイドからの逃亡。

ヨーロッパ外からの移民の結果、西ヨーロッパの新たな多様性。

今や、イスラム教も、ヨーロッパの宗教となった。

1990年に、イスラム教徒は約2000万人。

そのうち、約800万人はバルカン半島とブルガリアに（オスマン帝国の遺産）。

約1200万人がヨーロッパに移住したイスラム教徒。